

## 日常的に行うキャリア教育の重要性に共感

本校では進路指導部がキャリア教育を担当しており、実施形態は「イベント型・非日常型」だ。2月号の特集で、三重県の鈴木達哉先生が言われていた「授業や部活動の中でもキャリア教育を行っていく」ことや、茨城県の長山祐司先生の「文化祭、体育祭など、伝統的に行われている学校行事も、人間関係を築く力を養う場としてキャリア教育に組み込んでいくべき」という考えは、その通りだと思っただ。キャリア教育と構えると、日常の授業や生徒指導の中で一教員として生徒に向き合う力（指導力）が衰退していくように感じる。キャリア教育の質と量のバランスが大切であると同時に、かわかる教員に一つひとつの企画の意義を周知徹底すべきだと感じた。

【京都府・匿名希望】

## 我々の教育の答えは生徒の中にある

「学んだことが、どんな仕事につながり、将来どのように役立つのか」という視点だけでは、学びの意味は伝えられないと感じる。学ぶこと自体に意義・意味があるのではないだろうか。そうした意味で、2月号の特集では、宮城県仙台<sup>せんだい</sup>向山<sup>むかやま</sup>高校卒業生の吉田千里<sup>せんり</sup>さんの「向陵<sup>むかやま</sup>プランで身に付けたものは『考える力』だと思えます」という発言から、大切なものがしっかりと伝えられていると感じた。また、栃木県・私立文星芸術大学附属高校・英進科卒業生の小川和広さんの「すぐには役に立たないかもしれないけれど、後々まで役に立つものを伝えられた」という発言も同様

# Reader's VIEW

Volume 1

読者のページ

## 読者の先生方からのご意見を紹介します

であり、両校の素晴らしい実践が伝わる、「我々の教育の答えは生徒の中にある」ことを感じさせてくれる良い企画だった。

【岩手県立一戸高校・川村俊彦】

## 全教科の観点別シラバスの作成事例が参考になった

高校では観点別評価に対する認識がまだ不十分で、その結果、本校では授業改善もほとんど進んでいない。言語活動の充実が叫ばれてはいるが、知識・理解偏重の講義形式の授業から脱却できていないのが現状である。2月号「新課程 教科指導最前線」の福岡県立香住丘<sup>かみづか</sup>高校の全教科の観点別シラバスの作成の事例は非常に参考になった。

【和歌山県・匿名希望】

## 問題を回避しない学校経営の姿勢に感服

2月号「指導変革の軌跡」を読み、鳥取県立倉吉東高校が実践する、教師の成長を期待して、教師の協働性・同僚性の高まりを待つという姿勢にすごさを感じた。「学校経営とは、問題を認識したならば、それを回避したり、先送りしたりすることのない真の勇氣を束ねていくことに他ならない」という牧尚志<sup>ひなし</sup>校長の言葉に感服した。

【山形県・匿名希望】

教師川柳

新天地 未来に向かってさあ始動!

沖縄県・スーパーヒーロー

# 子どもは未来

ベネッセ教育総合研究所は、  
子どもたちの成長に寄り添う研究と  
社会への発信を通して、  
一人ひとりが学びに向かい、  
今と未来を“よく生きる”ことに  
貢献することを目指しています。

ベネッセ教育総合研究所

## 編集後記

◎2013年度で「VIEW21」、そしてベネッセを離れることになりました。しかし、学校外から学校を支援していきたいという思いは、今も変わりません。その難しさや力不足を痛感した数年間でしたが、全国の先生方の熱い思いに触れ、たくさん感動し、教育の大切さを再確認しました。これまでご指導いただいた先生方へ心より御礼申し上げます。(青木)

◎引き続き「VIEW21」を担当いたします。2014年度で3年目となりますが、勉強の毎日です。日々の先生方の課題、中・長期的な教育課題を解決するために、高校教育はどうあるべきか。「VIEW21」は本年度も先生方と共に考えてまいります。(柏木)

VIEW21 4月号 Vol.1

2014年4月10日発行

発行人 山崎昌樹  
編集人 春名啓紀  
発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所  
印刷製本 凸版印刷(株)  
編集協力 (有)ペンダコ  
執筆協力 中丸満  
撮影協力 川上一生、谷口哲、ヤマガチイキ  
イラスト協力 カモ  
VIEW21編集部  
〒163-0411 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング14階  
電話 03-5320-1215

©Benesse Corporation 2014

VIEW21

2014  
June  
6月  
Volume 2

次号は  
6月23日発行(予定)

「VIEW21」高校版は  
年6回の発行です